

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成23年2月10日 (2011.2.10)

【公開番号】特開2010-162016(P2010-162016A)

【公開日】平成22年7月29日 (2010.7.29)

【年通号数】公開・登録公報2010-030

【出願番号】特願2009-256885(P2009-256885)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 P 21/02 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 0 7 K 16/18 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/06 (2006.01)

G 0 1 N 33/50 (2006.01)

G 0 1 N 33/15 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 1 0 2

C 1 2 P 21/02 C

C 0 7 K 14/47

C 0 7 K 16/18

C 0 7 K 19/00

C 1 2 Q 1/02

C 1 2 Q 1/68 A

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 K 39/395 M

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 17/06

G 0 1 N 33/50 Z

G 0 1 N 33/15 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年12月1日 (2010.12.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

図 5 2 7 (配列番号 5 2 7) に示すヌクレオチド配列に対し、少なくとも 8 0 % の核酸配列同一性を有する単離された核酸。

【請求項 2】

図 5 2 7 (配列番号 5 2 7) に示すヌクレオチド配列の完全長コード化配列からなるヌクレオチド配列に対し、少なくとも 8 0 % の核酸配列同一性を有する単離された核酸。

【請求項 3】

図 5 2 7 に示すヌクレオチド配列からなる単離された核酸。

【請求項 4】

請求項 1 に記載の核酸を含んでなるベクター。

【請求項 5】

ベクターで形質転換した宿主細胞によって認識される制御配列に作用可能に結合する請求項 4 に記載のベクター。

【請求項 6】

請求項 4 に記載のベクターを有する宿主細胞。

【請求項 7】

C H O 細胞、大腸菌細胞又は酵母細胞である、請求項 6 に記載の宿主細胞。

【請求項 8】

P R O ポリペプチドの産生方法において、請求項 6 に記載の宿主細胞を、前記 P R O ポリペプチドの発現に適した条件下で培養し、前記 P R O ポリペプチドを細胞培養物から回収することを含む方法。

【請求項 9】

図 5 2 8 (配列番号 5 2 8) に示すポリペプチドに対し、少なくとも 8 0 % のアミノ酸配列同一性を有する単離されたポリペプチド。

【請求項 1 0】

異種アミノ酸配列に融合した請求項 9 に記載のポリペプチドを含んでなるキメラ分子。

【請求項 1 1】

前記異種アミノ酸配列がエピトープタグ配列又は免疫グロブリンの F c 領域である、請求項 9 に記載のキメラ分子。

【請求項 1 2】

請求項 9 に記載のポリペプチドに特異的に結合する抗体。

【請求項 1 3】

モノクローナル抗体、ヒト化抗体又は一本鎖抗体である、請求項 1 2 に記載の抗体。

【請求項 1 4】

担体との組み合わせで、(a) 請求項 9 に記載のポリペプチド、(b) 前記ポリペプチドのアゴニスト、(c) 前記ポリペプチドのアンタゴニスト、又は(d) 前記ポリペプチドに結合する抗体を含有する物質の組成物。

【請求項 1 5】

前記担体が製薬的に許容可能な担体である、請求項 1 4 に記載の物質の組成物。

【請求項 1 6】

(a)、(b)、(c) 又は(d) の治療的有効量を含有してなる請求項 1 5 に記載の物質の組成物。

【請求項 1 7】

容器、

前記容器上のラベル、及び

前記容器に収容された、(a) 請求項 9 に記載のポリペプチド、(b) 前記ポリペプチドのアゴニスト、(c) 前記ポリペプチドのアンタゴニスト、又は(d) 前記ポリペプチドに結合する抗体を含有する物質の組成物、

を含み、前記容器上のラベルが前記物質の組成物が乾癬の治療に有用であることを示す、製造品。

【請求項 18】

乾癬の治療を必要とする哺乳動物に対し、(a)請求項9に記載のポリペプチド、(b)前記ポリペプチドのアンタゴニスト、又は(c)前記ポリペプチドに結合する抗体の治療的有効量を投与することを含む、哺乳動物の乾癬を治療する方法。

【請求項 19】

図528(配列番号528)に示す本発明のPROポリペプチドを含むことが疑われる試料中の前記ポリペプチドの存在を決定する方法であって、抗PROポリペプチド抗体に前記試料を曝し、前記抗体の前記試料の成分への結合を決定することを含む方法。

【請求項 20】

哺乳動物の乾癬の診断方法であって、(a)哺乳動物から採取した組織細胞の試験試料中と、(b)同一の細胞型の既知の正常組織細胞のコントロール試料中における図528(配列番号528)に示す本発明のPROポリペプチドをコードする遺伝子の発現レベルを検出することを含み、コントロール試料と比較して試験試料中の前記遺伝子の発現レベルが高いか又は低い場合、試験組織細胞を採取した哺乳動物における乾癬の存在が示される方法。

【請求項 21】

哺乳動物の乾癬の診断方法であって、(a)前記哺乳動物から採取した組織細胞の試験試料に図528(配列番号528)に示す本発明のPROポリペプチド抗PRO抗体を接触させ、(b)試験試料中における抗体とポリペプチドの間の複合体形成を検出することを含み、前記複合体の形成により試験組織細胞を採取した哺乳動物における乾癬の存在が示される方法。

【請求項 22】

図528(配列番号528)に示すPROポリペプチドの活性を抑制する化合物を同定する方法であって、前記ポリペプチドに通常は反応する細胞を(a)前記ポリペプチド及び(b)候補化合物に接触させ、前記細胞の(a)に対する反応性の不足を決定することを含む方法。

【請求項 23】

図528(配列番号528)に示す本発明のPROポリペプチドをコードする遺伝子の発現を抑制する化合物の同定方法であって、前記ポリペプチドを通常は発現する細胞を候補化合物に接触させ、前記遺伝子の発現の不足を決定することを含む方法。

【請求項 24】

前記候補化合物がアンチセンス核酸である、請求項23に記載の方法。

【請求項 25】

図528(配列番号528)に示す本発明のPROポリペプチドの活性を模倣する化合物の同定方法であって、前記ポリペプチドに通常は反応する細胞を候補化合物に接触させ、前記候補化合物に対する前記細胞の反応性を決定することを含む方法。